

海
島
如
花
中
國
泰

0-36

清

俳諧資料カ一卜

年代

編者
(筆者)

書名

備考

俳諧

古今和歌集

四四

(秋)

(下垣内蔵)



十月

神無月

神留月

神命

小六月

玄猪

達方忌

芭蕉忌

卯命

十夜

御取越

意講

初時雨

時雨

冬雨

木枯

霜

霜柱

冰

氷柱

初雪

雪吹

雪竹

雪轉

雪女

雪等

雪霰

霰

冬籠

冬拾

口切

炉開

炭爐

火桶

埋火

櫛

炭

竈

蒲團

紙子

衾

頭巾

寒

寒

冬月

月夜

寒月

冬

冬

冬川	枯野	枯草	朽柴	冬落
木葉	冬木立	歸花	朽柴	冬落
山茶老	枇杷花	冬梅	冬楮	冬牡丹
寒菊	水仙	石落芒	冬楮	冬牡丹
枯菽	枯芦	麥蒔	大根引	鈎干菜
葱	網代守	鱖突	柴漬	生海嵐
水鳥	鴛鴦	鴨	浮籬鳥	千
鷓鴣	冬蠅	袴着	吹子祭	嘉堂
霜月	冬至	風呂吹	吹子祭	嘉堂
大師講	報恩講	風呂吹	吹子祭	嘉堂

四冬

鷹	廿、啼	暖	事始	衣配
十二月	師是	針供養	事始	衣配
寒雨	寒声	寒梅	寒椿	衣配
追難	豆打	糝賣	餅搗	餅煎
煤掘	古曆	圍見	年忘	餅煎
年市	暮行	年忘	年忘	餅煎
歲守	除夜	厄拂	誤礼	餅煎
去年今年	大三十日	厄拂	誤礼	餅煎

仙傳四圖集

権亭主人撰
志冠梅左校

十月

十月

十月や、工を成るる者木成りたる

吉人
栲

十月や、あまのちかきけり北の

眉山

十月や、あまのちかきけり北の

万係

十月や、あまのちかきけり北の

吉人
栲

神無月

降山をいふも鳥やうん

吉人
栲

四冬二

氷柱

戸と風のまうも興傳さ氷柱

氷柱

初雪

つゆとこのニツは初雪

初雪

雪吹

雪吹くは雪の毎も一帯色

雪吹

雪竹

雪竹の雪は雪の毎も一帯色

雪竹

雪轉

雪轉くは雪の毎も一帯色

雪轉

雪女

雪女は雪の毎も一帯色

雪女

四冬八

雪草

雪草は雪の毎も一帯色

雪草

雪

雪は雪の毎も一帯色

雪

雪は雪の毎も一帯色

雪

雪は雪の毎も一帯色

雪

雪は雪の毎も一帯色

雪

雪は雪の毎も一帯色

雪

雪は雪の毎も一帯色

雪

雪は雪の毎も一帯色

雪

雪のまじりたるは雪ん峰
起るのちゆりやうねぬ
雪のまじりたるは雪ん峰
物あは陽のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰

市原
岩氷
岩氷
岩氷
岩氷
岩氷
岩氷
岩氷
岩氷

四巻九

一本も赤く極まるとは雪の影
雪のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰
雪のまじりたるは雪ん峰

市原
岩氷
岩氷
岩氷
岩氷
岩氷
岩氷
岩氷
岩氷
岩氷

炉

炉のふきやちまを昆布の緒でけ

子合

巨

火のしほとまきし拂や炉のしほ

大年

火

くられししほや巨燧のしほとまき

燧高

埋

火のしほをくられししほや桶

下

埋火のしほをくられししほや桶

左亭

四冬十二

紙

子 福人しほをくられししほや桶

西木

衾

おのろけ 衾のしほをくられししほや桶

左無

頭

巾 頭巾のしほをくられししほや桶

柴大

寒

産 産のしほをくられししほや桶

梅井

寒のしほをくられししほや桶

李橋

冬 田 野をくぐりて寒りし冬田小 七
 冬 山 冬川や咽ふくぬ 竹
 招 寸 高文文必して申く枯也小 卵
 枯れくると虫の這あふ 杜也小 敬
 枯有りて矣存の邊る 枯也小 相山 有
 ありぬく 時をわねぬ 枯也小 夜
 枝くくく毛けあふ 杜也小 鳥

四冬丁四

一人り 考むりてく枯也小 未
 炬けしと 冬にたつく 枯也小 庭
 冬 野のくぐりて 寒りし 枯也小 板
 冬 角を 枝をちりて 枯也小 映
 冬 海隈を 中枯れく 重き 枯也小 起
 冬 道を 冬にたつく 枯也小 里
 枯 研 枯れく 冬にたつく 枯也小 木

木葉

抄りて中々...
 夕暮...
 ぬ...
 ぬ...
 抄りて...
 小...
 ぬ...
 ぬ...

四五十五

木葉

冬木立

あり...
 陣...
 春...
 花...
 一...
 一...
 一...
 一...

帰巻

浪さうやまの志まの
 一巻 中 子 日 寸 寸 巾 巾 巾
 地 巻 巻 の 巻 丸 く 寸 巾 帰 巻
 茶 葉 茶 葉 茶 葉 茶 葉 茶 葉
 茶 花 茶 花 茶 花 茶 花 茶 花
 茶 葉 茶 葉 茶 葉 茶 葉 茶 葉
 茶 花 茶 花 茶 花 茶 花 茶 花
 茶 葉 茶 葉 茶 葉 茶 葉 茶 葉

四冬十六

山茶花

山茶花 山茶花 山茶花 山茶花 山茶花
山人 麓角

枇杷卷

枇杷卷 枇杷卷 枇杷卷 枇杷卷 枇杷卷
 山人 山人 山人 山人 山人

冬梅

冬梅 冬梅 冬梅 冬梅 冬梅
 山人 山人 山人 山人 山人

冬椿

冬椿 冬椿 冬椿 冬椿 冬椿
 山人 山人 山人 山人 山人

冬牡丹

冬牡丹 冬牡丹 冬牡丹 冬牡丹 冬牡丹
 山人 山人 山人 山人 山人

寒菊

直すゝのりて 隆平一冬 菊
 芳くも 寒菊の 花の 入る
 寒くも 菊の 花の 形
 寒くも 菊の 花の 色
 寒くも 菊の 花の 香
 寒くも 菊の 花の 味
 寒くも 菊の 花の 触
 寒くも 菊の 花の 聴
 寒くも 菊の 花の 嗅
 寒くも 菊の 花の 味
 寒くも 菊の 花の 触
 寒くも 菊の 花の 聴
 寒くも 菊の 花の 嗅

菊
 花
 色
 香
 味
 触
 聴
 嗅

水仙

水仙の 花の 白くも
 水仙の 花の 香も
 水仙の 花の 味も
 水仙の 花の 触も
 水仙の 花の 聴も
 水仙の 花の 嗅も

水仙
 花
 白
 香
 味
 触
 聴
 嗅

石落花

石落花の 花の 白くも
 石落花の 花の 香も
 石落花の 花の 味も
 石落花の 花の 触も
 石落花の 花の 聴も
 石落花の 花の 嗅も

石落花
 花
 白
 香
 味
 触
 聴
 嗅

枯尾花

いそぎりむらや中ゆふそぎふ
枯込てゆふそぎ他ちのそぎり
三日月の上り物ぬとく枯尾花
辺の邊かゝ種をこ枯尾花

葉
柄
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

枯萩

ぬくそぎりゆふそぎの
萩枯るきやり種ゆふそぎ

一
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

枯芦

枯芦の一りふれをこぎり

水
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

麥蒔

麦蒔中蒔のそぎりゆふそぎ
一りふれをこぎり

丁
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

四
冬
十
八

大根皮

那の妙とひくそぎり大根引

々
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

医者のもも雁もれ身大根引

万
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

口水のそりねやそぎり大根引

葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

船子とれそぎり大根引

葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

船子とれそぎり大根引

葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

釣于菜

釣于菜のそぎり大根引

葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

尾ちや戸口のそぎり大根引

葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

あつそぎりのそぎり大根引

葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

葱

葱のそぎり大根引

葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

網代守

網代守のそぎり大根引

葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉
葉

鏡突

柴漬

生海草

水鳥

大野

鏡突

柴漬

生海草

水鳥

大野

鏡突

柴漬

生海草

水鳥

木

柱

去

去

必

及

器

物

堂

店

四冬十九

鷺鷥

鴨

二

一

又

舟

舟

舟

舟

舟

舟

冬

池

柴

梅

可

吾

里

解

傳

浮寝鳥

千鳥

一 雁交際のねむも入る中野の声
 川はいつかゆきわたる鳥の
 立騒ぐ中野のさけや鳥の
 鳥のとれしねむ 松方
 彼方のねむし又さくさく 三子丸
 みるむれし一那さのさくさく 遠左
 一 押えねむし村しさくさく 二子丸
 ねむしはねむしさくさくさく 近丸
 ねむしはねむしさくさくさく 重盛
 ねむしはねむしさくさくさく 尾

四冬二十

浮寝鳥のねむも入る中野の声
 川はいつかゆきわたる鳥の
 立騒ぐ中野のさけや鳥の
 鳥のとれしねむ 松方
 彼方のねむし又さくさくさく 遠左
 みるむれし一那さのさくさく 二子丸
 一 押えねむし村しさくさく 重盛
 ねむしはねむしさくさくさく 尾

生薑酒
河豚

河豚汁や川魚の汁を大に煮し

花由

女、煮し進め入りり 後 汁 三

下、下行するも、酒、汁、汁

赤星

ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ

致、致

雑、雑、雑、雑、雑、雑、雑、雑

松、松

雑、雑、雑、雑、雑、雑、雑、雑

高、高

川、川、川、川、川、川、川、川

丁、丁

河、河、河、河、河、河、河、河

後、後

河、河、河、河、河、河、河、河

後、後

四六六二

鷹

甘、啼

暖、鳥

鉢、叩

それ、鷹の、泣く、鳴く、之、を、見、せ、り

鳥、推

鷹の、啼、鳴、き、う、り、と、鳴、く、り

里、推

又、も、の、教、へ、る、ぬ、暖、め、と、

柴、人

可、月、名、一、と、い、ひ、体

好、古

一、昨、り、と、か、か、一、頃、ち、り、海

藍、羽

鷹、の、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ

白、壺

樽、入、の、出、く、れ、煮、て、味

可、樽

可、可、可、可、可、可、可、可

玄、半

若、ろ、ろ、も、知、と、名、を、い、ひ、海

子、全

寒雨 伏へもまゝぬゆり、空より入
梅 出

寒声 空より少ぬり、巾巾の志あり
梅 出

寒梅 空より梅、空より梅、空より梅
梅 出

寒椿 空より椿、空より椿、空より椿
梅 出

夜配 空より夜、空より夜、空より夜
梅 出

追灘 空より追、空より追、空より追
梅 出

豆打 空より豆、空より豆、空より豆
梅 出

四冬

餅搗 餅つぎや中やゆらぎの一人
梅 出

餅苙 餅つぎや中やゆらぎの一人
梅 出

煤捐 餅つぎや中やゆらぎの一人
梅 出

煤捐 餅つぎや中やゆらぎの一人
梅 出

煤捐 餅つぎや中やゆらぎの一人
梅 出

煤捐 餅つぎや中やゆらぎの一人
梅 出

煤捐 餅つぎや中やゆらぎの一人
梅 出

煤捐 餅つぎや中やゆらぎの一人
梅 出

煤捐 餅つぎや中やゆらぎの一人
梅 出

赤とりのつらけをきく古唐 赤山

園見

中庭より連の櫓の

紫山

年忘

肉かゝるや海やまゝに連

紫山

上はくしつひしりりりり

蒼江

節季候

昔者よりや世よりまゝに連

蒼江

年市

身のあはれは是へきく年市

庭里

くくく市四月に葉をひたり

杜山

くくく市四月に葉をひたり

杜山

乾鞋

うへに鞋や葉をひたり

竹里

年暮

梅とれと乾鞋をひたり

竹里

四

年

り連の町を歩りや和のわたり

白深

り連の町を歩りや和のわたり

白深

り連の町を歩りや和のわたり

白深

り連の町を歩りや和のわたり

白深

年木樵

年木樵の思ひを連のわたり

竹里

年木樵の思ひを連のわたり

竹里

年木賣

梅依りて思ひを連のわたり

竹里

年守

くくく市四月に葉をひたり

竹里

年

くくく市四月に葉をひたり

竹里

岸のふち立膝をきりあさひ
三十一

の馬の降りりし終
伯耆

新さく秋向ふや戸紗帽
三十一

私居のり懸ふくは巾を休月
要古

僅きり空りきりぬ造作
茶

降しり空積るもやうりり
最支

遠くは秋付給ひぬ暖め
月

りのきりて小すくかりぬ夜終
少

何事のりり申二白くなく
古人

西巻下

夕望しりりる月秋の木のきり
三十一

枿葉を丸ら結の工澄あきりり
估四

枿先く二葉のたすりや能より
馬左

ぬるのりきりすなく寒く
茶

ぬつととりし思ふる巾池の物
茶

浮てきり窮し御とて
茶

方のみね引給はり秋燈
茶

埋まを二りもこなる
茶

所居のたふぬ中
茶

昔々... 一 吳
 ... 石
 ... 兄
 ... 惟
 ... 紅
 ... 了

他諸四國集考

四
冬

